

津波災害からの被災地復興と都市計画が果たした役割 コメント（牧紀男、関西支部）

1. 関西支部・南トラ被災地の立場：南海トラフの事前復興に活かす：ビジョンを持つこと・計画におとす、事業マネジメントも課題になるのでは：直轄調査（資源）、事業間調整、予算、選択
2. 教訓を活かすということ：そもそも現実を理解することがなかなか難しい。復興の経験が知恵になっていない。学びなおしを。＜全半壊世帯は阪神の方が大きい、がれき量を見ても同規模＞＜区画整理はそもそも5年以上必要・出ていく人は出ていく＞
3. 復興事業の目標設定：安全・生活・生業、すまいの復興とまちの復興 VS 地域から個人支援、すまい支援へ＜人の復興、地域の復興（菊池）災害ケースマネジメント、個人への支援とまちづくりの方針（出ていかないようにする、ROAD HOME、樺島）（グループ補助金、エリマネ）
4. 人口・基盤整備・地域特性を考慮した復興：気仙沼、石巻、漁業集落＜復興の姿が違ってよいのでは、それに適した事業・計画のあり方
5. 津波と地震という2つのハザードに対処（二度と同じ被害を繰り返さない、対処の違い（地震VS津波・土砂）、シミュレーションを利用して計画を（シミュレーションに対する理解）